【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立致遠館中学校

1　前年度 評価結果の概要	・「知・徳・体」のバランスのとれた教育の推進のための具体的な取組が概ね実践できている。 ・生徒の自発的学習習慣の定着と自宅学習の充実を図る必要がある。また、将来の夢や目標が持てる指導とさがを誇りに思う教育のさらなる充実が必要である。 ・時間外勤務時間の縮減と働きやすい職場づくりについての取組は概ねできているが、教育の質を高めるための職員の連携を高めていく必要がある。
2　学校教育目標	○中部地区の県立中高一貫教育校として、これからの時代を見据えた６年間のカリキュラムに基づく教育実践を更に充実させる。 ○理数科・普通科併置の特徴を生かし、未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、科学技術人材・グローバル人材を育成する。
3　本年度の重点目標	①「知・徳・体」つまり「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」バランスのとれた教育の推進 ②「生きる力」つまり自分で考え適切に判断して行動できる力の涵成 ③「主体的・対話的で深い学び」の実践とコミュニケーション能力に富む人材の育成 ④ 教職員にとって働きやすくてやりがいを感じる職場づくり

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○授業を受けて「なるほど、わかった」と肯定的な回答した生徒を95%以上 ○授業をとおして「学力(技能)を向上させた」と肯定的な回答した生徒を90%以上	・少人数授業やTTの実施による個に応じた指導の充実 ・復習課題や確認テストを活用した基礎学力の定着 ・定期考査や模試で学習定着度を把握し、実態に応じた適切な指導 ・補充学習や発展的学習も実施できている。 ・年2回の授業アンケートで生徒学習意識の把握・分析	A	・7月実施の学習状況調査では、「授業で課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した生徒が92%であった。 ・少人数授業やTTを実施することにより、個に応じた指導が可能となり、補充学習や発展的学習も実施できている。 ・復習課題や確認テスト等も随時取り入れている。	A	・「授業を受けて、なるほど、わかった」と回答した生徒、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した生徒が98%だった。 ・少人数授業やTTで実施することにより、個に応じた指導が可能となり、補充学習や発展的学習も実施できた。	A	・「授業を受けて、なるほど、わかった」と回答した生徒、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した生徒が98%であり、ほぼ全員が充実した学習ができていると評価できると考えます。	教務
	○自発的学習習慣の定着、自宅学習の充実	○平日２時間、休日４時間で週18時間以上となる家庭学習時間の確保した生徒を80%以上	・家庭学習状況を把握した適切な指導 ・学年と教科が連携して計画的な課題の質量を生徒に提示 ・C-timeを活用した自発的学習の定着	B	・復習用課題や確認テスト、定期考査を通して、学習の実態を把握することで、生徒の実態に合わせて適切な指導ができている。また、生徒たちの学習の一助として考査前の朝のC-タイムに自学自習を実施している。	B	・「家庭学習時間(日平均2h、週18h以上)を確保できている」と回答した生徒が、「そう思う」、「ややそう思う」を合わせて40%であった。今後も課題等を工夫することで、家庭学習時間の確保を行っていく必要がある。	B	・目標には到達していないものの、指導はしっかりされている印象である。様々なきっかけで、学習の必要性について引き続き生徒達の理解を高めていってもらいたい。	教務 進路指導
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒を90%以上 ○図書室の貸出冊数を一人20冊以上 ○豊かな心の醸成につながる講演会等を年2回以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関する全校応募を行っている。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・図書室利用を促進のため図書委員会の活動で読書の啓発活動 ・各学年会・生徒指導部会・教育相談部会の定期的開催と情報共有	A	・人権集会、人権同和教育講演会、人権作文への全校応募を行っている。 ・クラス読書会の実施により、1冊の本を読み通し、課題を設定し、クラスの中で読み深めるカを育てることができた。 ・佐賀県まなび課が推進するビブリオバトルについて周知し、認知度を高め、参加を促した。準決勝に進んだ生徒もいる。	A	・「生命(いのち)の安全教育」を実施したことで、性暴力に関する正しい知識を持ち、性暴力が起きないようにするための考え方・態度を身に付けることができた。 ・今年度、警察主催による「命の大切さを学ぶ」講演会を開くことができ、犯罪被害者の方の講演を聞き、自身と周囲のかけがえのない命について、考えを深めることができた。 ・図書室の貸出冊数が一人あたり20.4冊で、目標を達成できた。	A	・生徒達はいろんな取り組みの中で「心の学習」ができていると感じています。 ・「図書室の貸出冊数　一人20冊以上」という目標はかなり高いように最初は思いましたが、達成されたことに驚きました。生活の中で「読書をする」という機会が今後も続くようにご指導いただけましたら幸いです。	図書 保健指導 生徒指導 道徳担当 総務
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめは絶対にしないさせないという意識をもった行動ができている」と回答した生徒90%以上 ○アンケートを活用し、いじめを許さない雰囲気づくりと意識の向上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成・見直し ・定期的ないじめアンケートの実施で実態把握と早期対応 ・問題発生時の敏速な対策委員会の開催及び組織的対応と関係機関との連携 ・全校集会やHR等で、いじめ防止の啓発活動の徹底	A	・各学年や教育相談部と協力して、いじめの認知・覚知を迅速にできるよう体制を整えている。 ・いじめに関わるアンケート等であがってきた事案に対し、迅速に学年で対応している。	A	・生徒へのアンケートで、3学年平均で99%の生徒が、いじめをしない・させないという意識で行動できていると回答している。 ・毎月教育相談部会で生徒の状況を共有し必要であればSCや病院、NPOなどの外部機関とも連携しチームとして組織的に対応することができた。	A	・いじめの認知件数が、2年前から減少しているのは、未然防止が上手くいっていると考えてよいのか、認知件数の数が多い方が保護者としては安心する面もある。 ・SNSの使用については、注意喚起を継続して行う必要がある。 ・「いじめを絶対にしない・させない」という意識が生徒に浸透している。また問題が発生しても学校として迅速に対応できる体制である。	生徒指導 教育相談
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている と思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・生徒の資質・能力を育む授業づくりの校内研修等の実施 ・各種体験活動で、生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む ・教育活動全体で、生徒が自己有用感を育む取組の実践	A	・職員研修で致遠館の授業で育てたい5つの資質・能力を全職員で共創・共有し、授業づくりに生かしている。 ・(中1)宿泊研修や各種学校行事を通して、互いを尊重し助け合いながら活動することを学ぶことができた。協力して取り組む姿勢が育っている。今後は相手の立場を考え広い視野で行動できるようにしていきたい。 ・(中2)将来の目標や夢の実現につながる講演会や校外学習(大学訪問)の実施とそのふり返りを通して、生徒たちは自分の将来について主体的に考えることができるようになった。 ・(中3)文化発表会では、「多様性」をテーマとした劇を完成させ、それぞれの個性を発揮した。また宿泊研修では、人間関係と集団生活	A	・致遠館の授業で育てたい5つの資質・能力を全職員に共有ルーブリックを作成し、試用しながら主体的に学べる授業や評価の改善に生かすことができた。 (中1)福祉体験やキャリア教育講演会を通して、他者への配慮を意識した行動ができるようになり、自分の役割や大切さを考える姿が育った。 (中2)大学訪問や講演会を企画し、生徒たちが視野を広げ、具体的な将来像を描くことができるようにがけた。 (中3)個別面談を随時行い、高校進学、普通科・理数科選択についての指導や将来の夢を具体化できるよう支援を行った。	A	・生徒達を丁寧に指導されている様子がよく伝わる。 ・大学訪問はいい取組である。保護者の同伴も検討してはどうか。 ・職業研究も取り入れてみてはどうか。 ・学年に応じた教育を実施いただいている。また、ほとんどの生徒が「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と思っていることに、先生への信頼性があるように感じ、保護者としてとても安心である。	研修 学年主任
	○人権・同和教育の推進	○「人権が尊重され生活できている」と感じる生徒95%以上 ○身近な人権課題を把握し、解決しようとする姿勢の涵養	・人権意識に関するアンケートの実施 ・人権・同和教育に関する講演会や職員研修の実施 ・各教科、道徳、特別活動での人権学習の充実による生徒の人権意識の向上	A	・生徒及び教職員を対象に人権・同和教育講演会を実施し、地域やジェンダーによる進学格差のない社会づくりに必要なことについて考えを深めた。	A	・人権作文、人権集会、講演会を通して人権意識を高めることができた。 ・「人権が尊重され生活できている」と回答した生徒は98%、「人権・同和問題に対して問題意識をもち、主体的に理解しようとしている」と回答した生徒は97%であった。	A	・的確な指導により高い水準が維持されている。	研修
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食摂食率を90%以上 ●「健康に良い食事をしている」生徒を90%以上	・保健だよりを活用して朝食の重要性の周知と生徒の意識の向上 ・朝食摂食率調査やミルク給食等をとおしての食育教育の推進 ・致遠館手帳を活用した規則正しい生活習慣の定着	A	・朝食の重要性について掲載した保健だよりを生徒及び保護者に配布し、バランスよい食事を摂ることの大切さについて周知した。 ・個々の生徒について、職員間での情報交換を行い、必要に応じて生徒や保護者に対し相談・アドバイスを行うことができた。 ・朝食の摂食率については12月に調査をする予定である。	A	・「毎日またはほとんど毎日3回食事をする」と回答した生徒は95.7%だった。 ・「健康に良い食事をしている」と回答した生徒も94.9%だった。 ・「実践リーフレット」や「保健だより」を活用し、睡眠・食事の重要性を伝えた。	A	・的確な指導により高い水準が維持されている。 ・遠方から通学する生徒も多い中、しっかり朝食をとり、バランスよい食事をしている生徒が95%程である。生徒に対し学校からしっかりと生活指導がされている。さらに、保護者にいても食や健康について高い意識を感じられた。	保健指導
	○部活動(社会体育を含む)や課外活動への意欲的な参加	○部活動(社会体育を含む)への加入率を90%以上 ○部活動計画に基づく休養日の実施率を100%	・部活動体験入部期間を設け、部活動加入の促進 ・ボランティア活動等の課外活動への参加を促す ・「部活動の在り方に関する方針」に沿った休養日設定の徹底	A	・部活動紹介、体験入部期間を設け、部活動加入の促進を図り、97%の生徒が部活動(社会体育を含む)に加入した。 ・毎月の調査で「部活動の在り方に関する方針」に沿った休養日の設定を徹底できた。 ・校外でできるボランティア活動を紹介し、参加を促すことができた。	A	・「部活動は計画的に休養日が設定されていた」という回答は生徒91%、保護者93%だった。 ・部活動休養日調査を毎月行い、「部活動の在り方に関する方針」に沿った休養日の実施率は100%であった。	A	・部活動加入率も高く、文武両道を目指されている。 ・休養日も十分設定された中、大会等での活躍も見られることは素晴らしい。	副校長 生徒会指導
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守 ● 年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日及び学校閉庁日の設定 ・出退勤システムを活用した時間外在校等時間の自己管理の徹底 ・会議や行事の縮減・精選と業務の効率化 ・年間計画に基づいた部活動指導と適切な休養日設定	B	・学校閉庁日を設定したことで、夏季休業中の時間外在校等時間は少なかった。 ・会議の勤務時間内終了と行事の精選(日程調整等)、出退勤システム及び服務管理システムによる自己管理で、在校等勤務時間上限超えの職員は存在せず、産業医の面談の対象者はいなかった。 ・部活動の休養日の設定は年間計画に基づき、適切に運用されてい	A	・学校閉庁日を設定した(週休日を含め10日)ことと、及び、夏休5日の取得徹底により、夏季休業中の時間外在校等時間は少なかった。 ・時間外在校等時間は月平均21時間37分で基準となる月45時間を下回った。また、年間を通じ80時間超は0名であった。 ・在校等勤務時間上限超えの職員が一部いたが、産業医の面談の対象者はなかった。	A	・ここ数年、労働環境が良い方向に改善されていると感じる。ぜひこれからも継続的に取り組んで欲しい。 ・職員の時間外勤務時間が減ったのは、良かった。	副校長 総務
	○教職員間の信頼・連携の強化と働きやすい職場づくり	○「働きやすい職場である」と考える職員を90%以上	・職員アンケート(年1回)の実施 ・月1回のゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚の再確認 ・校内での職員の相談体制の周知徹底 ・衛生委員会を実施	A	・毎月の職員会議に合わせてゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚を保っている。 ・衛生委員会を毎月開催し、産業医の指導・助言を得ながら、働きやすい職場づくりについて情報交換を行っている。 ・今後、職場改善に向けた職員アンケートを実施する予定である。	A	・毎月の職員会議に合わせてゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚を保った。 ・年度当初の相談体制の周知と毎月の衛生委員会による産業医の指導・助言を参考にして、働きやすい職場づくりに努めた。 ・「働きやすい職場だと思うか」に「そう思う、ややそう思う」と回答した職員は90%だった。アンケートで出された職場改善に関する意見を踏まえより良い環境づくりに努めていく。	A	・ここ数年、労働環境が良い方向に改善されていると感じる。ぜひこれからも継続的に取り組んで欲しい。 ・「働きやすい職場である」と回答された先生方90%という結果から、風通しのよい環境作りを学校関係者皆さんで作られている	副校長
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員70%以上	・校内職員研修の実施 ・シェアリングシートを活用した職員間の共有と連携 ・個別の教育支援計画(合理的配慮申請書)の適切な運用	A	・SCによる特別支援教育職員研修会の実施 ・教育相談部会を毎月実施し、情報の共有を行った。 ・個別の教育支援計画(合理的配慮申請書)が必要な生徒に対して情報共有し適宜更新することができた。	A	・SCによる特別支援教育職員研修会の実施 ・教育相談部会を毎月実施し、情報の共有を行った。 ・個別の教育支援計画(合理的配慮申請書)が必要な生徒に対して情報共有し適宜更新することができた。	A	・よく達成されている。 ・SOSの出し方を教えていく必要がある。	教育相談

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○中高一貫教育の充実	○中高6年間を見通した教育課程の編成と実践	○必要な基礎学力・応用力の育成のために、授業改善や新たな取り組みを試みようとした教員90%以上 ○中高6年間を見通したより良い教育課程の編成	・キャリア教育会議や中学校連絡会で、適切な教育課程の見直しと検討の実施	A	・中学校連絡会を定期的に実施し、4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果の分析、県学力調査、学力推移調査など、その都度情報の共有、課題の検討・改善を行った。	A	・中学校連絡会を必要に応じて実施し、全国学力・学習状況調査の結果の分析など、その都度情報の共有、課題の検討・改善を行った。	A	・本校の強みの一つであり、是非今後も継続的に取り組んで欲しい。 ・中高一貫教育として早い段階から将来の進路について考える機会もあり、6年間落ち着いた環境で学習できることが魅力と考えます。学習面だけでなく、体育祭や文化祭など中高合同で実施されることで、中学生として良い学びや刺激を受けることができる。	教務
	○中高6年間を見通したキャリア教育の充実	○学校評価アンケート「中高一貫校の特色を感じるか」「生徒に応じた進路指導をしているか」において肯定的な回答をした生徒をともに80%以上	・学校評価アンケート(年1回)の実施 ・キャリア教育会議での中高職員の共通理解と効果的なキャリア教育事業の運営 ・ビックアップ面談等を通じ、進路選択に関して個に応じた指導	B	・アンケートについては、12月に実施予定である。 ・キャリア教育では、講演会や大学訪問など、学年に応じたプログラムを実施することができている。今後も講演会等を実施する予定である。	A	・「中高一貫校の特色を感じる」と回答した生徒は97%だった。 ・キャリア教育では、6年間を見通して各学年に応じた取り組みを実施することで、進路意識の向上につながった。 ・「学校は一人ひとりの生徒に応じた進路指導ができている」と回答した生徒が「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて93%で、生徒の実態に応じた進路指導を行うことができた。	A	・アンケート結果からも生徒・保護者ともに中高一貫校の良さを感じている。 ・生徒の進路指導としても、周りの公立中学校であれば「高校受験」となる時期から、その先の進路に向けた指導を生徒が受けている。	進路指導
◎志を高める教育	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「さがを誇りに思う教育」を推進し、「佐賀に愛着を持つ」生徒を85%以上	・総合的な学習の時間や学校行事で郷土に関する学習の実施 ・エリアスタディやボランティア活動で郷土のことを知る機会の設定	A	・総合的な学習の時間や学校行事等で郷土に関する学習を実施した。今後も総合的な学習の時間の中で、郷土を知り、郷土の課題に対する解決策を考えさせる学習を実施する予定である。	A	・総合的な学習時間や学校行事等で、郷土に関する学習を実施した。また、エリアスタディ(中1・中2)では、郷土のことを知る機会を設けた。その結果、「ふるさと佐賀を誇り思い、佐賀に愛着を感じている」と回答した生徒87%と高かった。	A	・よく達成されている。 ・エリアスタディの取り組みとして「佐賀」について生徒が自主的に調べたりすることで、ふるさとについて知り、愛着を持てることは素晴らしい。また、他の生徒の発表を見ることで、今まで知らなかった「佐賀」を知ることができた、探究学習として良いテーマである。	進路指導
	○SSH事業の活用	○「トライアル」・「Jr. 課題研究」・「探究基礎」をとおして、実験や調査等での試行錯誤をもとに教訓を作り、主体的な学びに活用した経験のある生徒を80%以上	・学校設定科目で「試行錯誤から学ぶ力」や「協働的に取り組む姿勢」の育成につながる指導法の開発	A	・「Jr. 課題研究」・「探究基礎」の学習を通じて、チームワークや、考えを形にするための試行錯誤する力が身についてきている。	A	・学校評価アンケートの集計結果より、「主体的に課題研究・探究活動に取り組むことができましたか」という質問に対し、トライアルの対象学年である2年生、Jr課題研究および探究基礎の対象学年である3年生でともに97%の生徒がそう思う、ややそう思うと回答した。 ・これまでの教材開発の成果として、他校の参考にしていただけるようなカリキュラムの開発ができている。	A	・多種多様な課題研究に取り組んでいる。発表する機会を得ることはいい体験である。 ・「エリアスタディ」及び「Jr課題研究」といった活動において、中学生という早い段階から生徒自身が決めた課題に取り組み、「調べる力」や「まとめる力」を養い、またプレゼンも育成される他校にはない特色ある教育を受けることができている。	SSH研究
○教育の質の向上	○主体的・対話的な学びを重視した授業の推進	○生徒が主体的・対話的に学習に取り組めるよう授業改善を進めた教員90%以上	・公開授業や授業研究会の実施による指導力の向上 ・ICTを利活用した授業の実施 ・生徒による授業評価の結果を、授業の改善やICTを利活用した授業	A	・公開実践・公開授業を実施したり、実践研究会を開いたりして、教科や校種を越えて授業力向上を図ることができている。 ・生徒による授業評価の結果を、授業の改善やICTを利活用した授業実践に生かしている。	A	・公開授業や実践研究会を行い、ICTの活用法や探究的な課題の設定の仕方について学び合い、主体的・対話的な授業づくりにつなげることができた。	A	・熱心に取り組まれている。今後もぜひ継続的に取り組んでいただきたい。	副校長 研修
	○ICT利活用教育の推進	○主体的に情報を収集し、発信できる生徒を90%以上 ○ICTを活用して、知識・技能を深め、自らの資質向上に生かそうとする生徒を90%以上	・ICT利活用力向上のための効果的指導法の追求 ・「エリアスタディ」や「Jr. 課題研究」での情報収集力・分析力・プレゼンカの育成 ・英検等の資格取得や授業、部活動でのICT利活用推進	A	・「エリアスタディ」および「Jr課題研究」の活動において学習用PCを利用しながら研究および探究活動を行っている。今後は三学期の発表会に向けて、学習用PCで情報を集めたり、結果を分析したりして、発表の練習まで仕上げる予定である。	A	・学校評価アンケートの集計結果より、「ICTを活用して自らの考えをまとめ発表することができましたか」という質問に対し、トライアルの対象学年である2年生、Jr課題研究および探究基礎の対象学年である3年生でともに95%の生徒がそう思う、ややそう思うと回答した。	A	・「エリアスタディ」及び「Jr課題研究」といった活動において、PowerPointで作成したスライドを用いてプレゼンする子供たちの姿に感動した。ICT教育が活かされた活動である。 ・AIの生徒による活用は、自分で考えなくなる危険性もあるので、活用状況の把握と指導がいる。	教務 SSH研究

●…県共通　○…学校独自　◎…志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学校教育目標に基づいた本年度重点目標は概ね達成できたが、「自発的学習習慣の定着、自宅学習の充実」と「業務効率化」については さらに推進が必要である。 ・次年度に向けて、本年の取組をさらに深化させ「知・徳・体」の充実に向けた教育活動を展開し、主体的な学びを重視した授業を構築していきたい。 ・今年度初のC-design-day(体験的学習活動等休業日)の3日間の設定は、生徒の主体性の向上に効果的であった。次年度にも計画的に設定していきたい。 ・各種業務をさらに精選・改善することで、働きやすい職場づくりや働き方改革を今後も推進したい。